

日本建築学会



東北支部年報

第 23 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15 日本生命仙台勾当台南ビル4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp<http://www.arch.ce.nihon-u.ac.jp/~aij-tohoku/>

巻頭言

地域社会に向けた学会情報の発信

東北支部長 鈴谷 二郎

本会では「一般社会への平易で正確な情報の発信」の実践として、2002年度に「清浄空気・建築憲章」を制定した他、幾つかの提言あるいは行動計画を発表しております。また技術者の育成・継続教育については、「本会が建築分野の継続能力開発に果たすべき役割」の調査研究報告が2002年3月にまとめられ、能力開発支援制度が創られました。2003年度から試行運用されます。この制度は、本会会員が本学会において行なったあらゆる活動を会員のキャリアとして登録して行こうとするもので、講習会、講演会等各種行事への参加等の活動が個々の会員の職業経験の蓄積と、進歩の足跡を示すものとして記録されるものです。国際化があらゆる産業の末端にまで及び、建築設計者、技術者の継続的な能力開発の必要性が増す中で、この制度の発足は多くの会員の職業能力の向上に寄与するものと思われま

す。東北支部においては、新企画「みちのくの風」の第1回が2002年6月15、16の両日盛岡市において支部研究発表会会場を岩手県立大学、その他の行事の会場を、70年前に建築家・佐藤功一氏が設計した岩手県公会堂として開催されました。研究発表110題、参加者120名を得て盛会裏に終えることが出来ました。第2回目の「みちのくの風

2003 青森」は青森支所の協力を得て、本年6月14日(土)、15日(日)の両日青森市において開催されます。全ての企画が青森県立大学でおこなわれますが、支部研究発表会については136題の講演申し込みがあり、PDのテーマは「雪国の街づくり」として、主に「雪とバリアフリー」の問題をとりあげます。また5月の支部総会の付随行事として行なわれるシンポジウムのテーマは、「東北の気候とこれからの住まい」で、東北の気候特性と住まいのあり方について、いろいろな視点から論じてもらうこととなりました。

本支部では地域社会に向けた学会情報の発信を、上記のようないろいろな企画を通じて行なうことを続けてきました。これらの企画の実施に当たっては多くの関連団体のご協力を得ており、一般参加も歓迎しております。本会会員にとって能力開発の良い機会となることをも目論んでおります。

今後とも本支部の活動に対し、会員の皆様の暖かいご指導とご鞭撻を頂ける様お願い致します。

目次	巻頭言 地域社会に向けた学会情報の発信	1	○ 第22回東北建築賞表彰式及び展示会報告	10	○ 常議員会から	17
○ 企画記事	2	○ 日本建築学会「作品選集2003」東北支部審査報告	10	○ 支部役員名簿	18	
○ 02 建築文化週間事業	3	○ 2002年度東北支部研究報告会	10	○ 2002年度事業報告	19	
○ 02 親と子の建築講座	4	○ 2002年度日本建築学会東北支部総会報告	11	○ 2003年度事業計画(案)	21	
○ 第23回東北建築賞(作品賞)選考報告	7	○ 研究部会活動報告	12			
○ 第13回東北建築作品発表会の報告	10	○ 支所だより	15			

企画記事

「みちのくの風 2002 岩手」開催報告

常議員 永井康雄

新たな企画として 2002 年度から実施することとなった「みちのくの風」は、東北支部の活動内容や研究成果を学会員はもとより、多くの市民の方々にも御理解頂く場として、また最近 1 年間に東北地方で行われた建築に関する様々な活動を一望できる場として企画された。内容は「研究活動」「市民との交流活動」「設計・技術活動」を柱とし、開催地も従来は建築系の大学が所在する都市に限られていたが、これにこだわらず各支所の所在地を含めた東北の各都市とした。第 1 回目の「みちのくの風」は、2002 年 6 月 15・16 日の 2 日間、盛岡市と滝沢村を舞台に開催された。

「研究活動」として、第 65 回東北支部研究報告会を滝沢村の岩手県立大学で開催した。124 題の講演発表が 2 日間(初日:9:00~11:30、2 日目:9:00~15:30)にわたって行われ、約 150 名の参加者のもと、活発な討論がなされた。発表された論文・報告を「日本建築学会東北支部研究報告集第 64 号(構造系、計画系 2 分冊)」として刊行した。

「市民との交流活動」として、初日の午後(13:00~16:20)に岩手県公会堂大ホールにて「子どものための空間」と題するリレー講演会を行った。講師は仙台市都市整備局・細田洋子氏、岩手子ども環境研究所・吉成信夫氏、尚絅女学院短期大学・北條祥子氏、岩手県立大学・狩野徹氏で、それぞれの専門的立場から順次講演した。その後、宮城大学・大村虔一氏がコーディネーターとなり、質疑及び総合討論へと移った。参加者は約 120 名であった。研究報告会出席者がリレー講演会にも参加できるよう、当日の研究報告会は午前中のみで開催としたが、会場が離れていたことが障害となった。しかし研究報告会参加者以外に多数の参加者があったことは、市民との交流を図るといふ当初の目的の一つを十分に果たしたものと評価できよう。

「設計・技術活動」として、リレー講演会に引き続き(16:30~18:30)、第 22 回東北建築賞の授賞式と受賞記念講演会を公会堂大ホールにて行った。今年度は作品賞が 4 点、作品奨励賞が 3 点、業績賞が 1 点、研究奨励賞が 3 点であった。また、東北建築賞パネル展(パネル 35 枚)とリレー講演会のテーマに関連した岩手県内の施設を紹介する岩手のこどもランド展(パネル 8 枚、模型 1 個)を 2 日間にわたって公会堂会議室(2 室)で開催した。子供連れや若年者の姿が多く見られた。

なお、初日の 19 時より岩手県民会館にて懇親会を開催した。支部発表者、東北建築賞受賞者、地元関係団体、支所・支部関係者ら 82 名が出席し親交を深めた。「みちのくの風」の開催にあたり御尽力下さった岩手県ならびに岩手支所、岩手県立大学、日本建築家協会東北支部、(社)岩手県建築士会、(社)岩手県建築士事務所協会の関係各位に謝意を表す。

「特色ある支部活動の報告」

渡辺浩文(東北工業大学)

日本建築学会東北支部では平成 14 年度、本部の公募型プロジェクト「特色ある支部活動企画」に、「環境共生概念啓蒙のための子供向けワークショップ-クリマアトラスをつくる-」を応募し、これが採択された。当時の担当常議員がいずれも研究委員会環境工学部会所属であったため、環境工学部会傘下に「環境教育WG」を設置し実施を図った。本稿はこの活動報告である。

テーマは 環境家計簿の記録、家庭エネルギー消費の記録、クリマアトラスの作成の 3 つを一般市民(特に子供を含む)とともに実施することであるが、日程と予算に限りがあるため、これらテーマに関連する調査研究を今年度予定されている会員を対象に委員を公募し、委員それぞれの調査研究活動を支援するとともに、委員相互・実施場所相互の連絡調整を行い、最終的にはそれぞれの企画内容・教材・結果と反省を報告書として取りまとめた。

公募に応じ環境教育WG委員となった会員は、下記 10 名である。

主査：渡辺浩文(東北工業大学)

幹事：持田灯(東北大学大学院)

松本真一(秋田県立大学)

菅原正則(宮城教育大学)

西川竜二(秋田大学)

須藤諭(東北文化学園大学)

三浦秀一(東北芸術工科大学)

川村広則(東北文化学園大学)

佐々木澄(東北大学大学院・会計担当)

十二村佳樹(東北工業大学大学院)

活動は、下記 4 つのテーマを具体的に設定し、それぞれにより遂行された。

(1) 原町市における環境モニタリング調査

(持田・渡辺・松本・佐々木・十二村)

福島県原町市において、市民参加による屋外温熱環境測定とクリマアトラス作成ワークショップ、および省エネナビを用いた家庭での電力消費モニタリングと省エネ行動支援を、現地の任意団体「原町環境調和まちづくり市民フォーラム」の協力を得て、実施した。

(2) 住居模型教材を用いたワークショップ

「あたたかい家をつくろう」(菅原・西川)

秋田市内の小学生を対象に、住居模型教材を用いた省エネルギーのための気候調整についてワークショップを開催した。3 種の住居模型の室内空気温度を測定し、暖かい家のために必要な断熱・蓄熱・気密について、参加者自身が考える実験を実施した。

(3) 小学校の環境エネルギー教育支援 (三浦)

体験型省エネ学習のプログラムを立案し、山形県長井市

の小学校でこのプログラムを実践した。プログラムは生徒向け講演会・保護者向け講演会、省エネモニターの設置、環境家計簿、そしてアンケート調査からなる。体験学習の結果、省エネルギーに対する意識が飛躍的に高まったことが明らかとなった。

(4) 住宅のエネルギー消費量調査 (川村・須藤)

仙台市および近郊から78世帯を対象とした電力消費量調査を実施し、建物種別・家族構成・延べ床面積の観点から分析を行い、電力消費特性を明らかとした。

いずれのテーマも、単に調査研究を執り行うだけでなく、子供を含めた市民参加に基づいている点、参加した市民自身の身近な環境に対する認識を高め、環境保全や省エネルギー行動に対する意識を高めることをも目的としている点に特徴がある。

ヒートアイランドや地球温暖化などの解決に向けての取り組みは、建築分野においては主として、建築技術の開発と適用という形でなされてきたが、その一方で住民個々の意識の向上や個人の身近な取り組みもまた重要である。特に東北地方においては、暖房エネルギー消費などが多い実態があり、「快適性の追求=エネルギー浪費、環境負荷の増大はやむを得ず」という考えが定着する心配がある。ほどよく快適性を求めながら、環境負荷が少ないことにも価値を見出せるような教育啓蒙活動を行うことは、地域の問題としても大切である。またこれからの世代(子供達)を啓蒙の対象とすることは、建築や環境のデザインにおける短絡的なコスト概念や偏った美意識を打破し、「自然共生」の意識を持った将来のクライアントを育てることに成り、長期的に見れば日本建築学会の重要な使命とも考えられる。今回の取り組みは試行段階ではあるが、将来に向けた着実な一歩となったと考えている。

活動成果のいくつかは日本建築学会東北支部研究報告集等に投稿され、さらに報告書としてもまとめられている。支部事務局までお問い合わせいただきたい。

02 建築文化週間事業

「仙台まちかど博物館フォーラム」

企画運営委員 細田洋子

仙台は戦災や戦後の区画整理等によって歴史的な建造物のほとんどが失われてしまいましたが、今でも旧奥州街道等に沿って蔵づくりの建物等がいくつか点在しています。こうした建造物に対する理解を深め、保全と活用について考えようと、「仙台まちかど博物館フォーラム」(10月15日~11月30日 共催:仙台市)を開催しました。期間中、仙台市景観重要建造物に指定されたばかりの「横山味噌醤油店」「石橋屋」「小林薬局」を含め5件をまちの小さな博物館にみたく、それらの建造物にゆかりのものや写真などを展示する「仙台まちかど博物館」(入場者:956名)を実

施し、10月25日には、午前中には、そのまちかど博物館をバスで巡る「仙台まちかど博物館探訪」(参加者:36名)、午後からは、歴史的建造物を活用する仕組みやしきかけについて、所有者、市民、専門家がともに考える「景観まち育てワクワクトーク」(参加者:150名)を開催しました。「まちかど博物館探訪」では、仙台駄菓子の老舗「石橋屋」に立ち寄り、戦前の「伊達商法」を受け継ぎ、売り手側の床が客側の床より高くなっているという今では珍しい店構えや駄菓子の資料館を観たり、また、「横山味噌醤油店」で、白壁が美しい大正9年築の店蔵や、今は使われていないという直径3.6mの味噌樽を観たりして、地域の人が育んできたぬくもりのある景観を堪能しました。「景観まち育てワクワクトーク」(会場:せんだいメディアテーク)では、延藤安弘千葉大学教授の基調講演『場所の力を育むー「まちの縁側」をめざして』と、「まちかど博物館」の所有者や建築家等を招いて建造物の歴史やまちへの愛着や抱負、活用の仕組みやしきかけを話し合うパネルディスカッションを行いました。終了後、「歴史的、文化的建物ばかりでなく、その中で脈々と受け継がれている生業に接することができました。」「生活をふり返るきっかけになりました。文化生活の向上の拠点になればと思います。」「建物のすばらしさ、なつかしさで胸がいっぱいです。古き良き物を残していきたい」などの感想が寄せられ、地域の記憶としてのこれらの建造物を大切にしたいとの想いが伝わってきました。「歴史的建造物を活かした景観まち育て」に向けて、今回の取り組みがその活動のきっかけになることを願っています。

「建築を創る環境講座」を終えて

福島支所 鈴木勝巳

福島支所においては、建築文化週間2002事業として、去る10月26日「建築を創る環境講座」を開催いたしました。本環境講座は第4回目となる事業で、これまでも建築に興味のある方々の幅広い参加をいただいております。

講座のプログラムは、第一線で活躍する建築家の「講演会」及び設計のプロセスを体験する「建築模型実践講座」の二部構成としました。特に「建築模型講座」は今回が3回目となりますが、建築を勉強中の学生を中心に予定人員を大幅に上回る参加があり大変活気のあるものとなりました。半数を超える女性の参加も一因となったようです。

さて、それぞれの内容についてですが、まず、第一部の「講演会」は、当県及び近県において実績のあるスタジオ建築計画の元倉眞琴さんをお願いしました。元倉さんには、S I住宅である「福島県営住宅鳥見山団地」とともに、第22回東北建築賞受賞作品である山形県の「朝日町エコミュージアムセンター創遊館」等の作品を題材としながら、自身が考える「建築」の持つ可能性についてご講演をいただきました。身近な住宅や地域における取り組み等がテーマとなったこともあり、参加者も親近感を持ちながら、「建

築」について考える貴重な機会となったものと確信しております。

第二部の「建築模型実践講座」は、前2回に引き続き、平木建築設計事務所の富樫龍男さんと模型製作のプロであるスケールモデル・ジオの佐藤実さんに講師をお願いしました。

今回は、敷地（傾斜地）と周辺の環境だけを条件として提示し、建築物の用途やデザインはすべて参加者の想像力に委ねることとしました。結果的には、我々の目論見どおり多種多様な用途・形態・色・材料の建築模型が出来上がりました。講座の最後に行われたプレゼンテーションでは、それぞれのデザインコンセプトが発表されましたが、周辺環境へも配慮しながら短時間で見事にまとめられた作品もあり、これから建築という分野に飛び込もうとする若い力に対する期待が大いに膨らみました。いずれは、福島県が力を入れている良好な景観形成にもぜひ貢献して欲しいという願望を抱きながら、将来有望な人材との接点をどのように設けていくか、新たな事業の構想を練り始めているところです。



「講演会」



「建築模型実践講座」

'02 親と子の建築講座

巨大ダンボールハウスを造ろう

古跡昭彦（青森県立弘前工業高等学校）

平成14年7月28日に、岩木町常盤野小中学校体育館において、親と子の建築講座「巨大ダンボールハウスを造ろう」を開催しました。大きな薄いダンボールでも、強度的にしっかりとしたドーム型の巨大ダンボールハウスができることを、強い構造になる仕組みを説明しながら親子で製作し、体験してもらうことを目的としました。親子総勢50名の参加となりました。

体育館いっぱい製作場所を確保し、ダンボールハウスのパーツの製作の仕方を説明し、早速、製作作業に入りました。子供たちでも間違いなくパーツを作ってもらうために、「ばか棒」と「型パーツ」を考案しました。その効果で、短時間で間違いのないダンボールパーツを作ることができました。当初からどの程度の大きさの物ができるのかあえて説明していなかったため、組み立てて行く途中で、出現していく予想外に大きなハウスに唖然としている様子は、してやったりという気持ちでした。足場を組んでの組立には、お父さん達の方が一生懸命であった事が印象的でした。この製作過程は、配布したカメラでそれぞれが撮影しており、夏休みの自由研究のレポートの材料となる仕組みになっています。巨大ダンボールハウスの完成時の大きさは、圧巻でした。講座の終了後の感想では、「親子で一緒に物を作り上げる事、皆で造った物が一つの大きなものになることに感動しました。親子共々楽しい一日でした。」と、どちらかという、大人の方の方がいたく感動していたようでした。たった一日の講座でしたが、物を作る楽しさや、建築の醍醐味を味わってくれたものと確信しています。



コンピューターによる住宅モデル作成

江川 嘉幸 (山形県立産業技術短期大学校)

平成14年11月9日に、山形県立産業技術短期大学校において、親子の建築講座「コンピューターによる住宅モデル作成」を開催しました。講座の内容は、昨年と同様に建築3次元CAD GRAPHISOFTを使用して自由な形状の住宅モデルを作成し、建築の楽しさを体験してもらうというものです。小・中学生にとってCADという用語は分かりにくいということで、講座名を上記に変更して募集したところ、定員を上回る11組23名の参加者となりました。

講座では、参加者に配布した操作手順書に沿って大型スクリーンに操作を実演し、親子が各自のCADを操作するという手法で入力を進めました。敷地はあらかじめ作成しておいたものを使用してもらいましたが、住宅の形状や各部のテクスチャは自由としました。参加者は皆熱心で、昼食も早々に休み時間無しで入力とシミュレーションに取り組むほどでした。各自の作品は後日CD-ROMで配布するというにしておりましたが、講座終了時に参加者全員の作品を見たいという要望が寄せられ、全員の承諾が得られたことから、今年は全作品をまとめたものを配布し大変好評でした。

子供たちは、今回の講座を通じ、自分のイメージを実現するツールとしてコンピューターとCADに十分興味を持ってもらえたように感じました。



講座風景

「やまがたレトロ館めぐり」

田苗 重樹 (やまがた歴史環境研究会)

山形市内には、江戸時代から昭和初期にかけての擬洋風建築や蔵などの歴史的建築物が数多く残っています。私達

「やまがた歴史環境研究会」はこれらの建築物を再認識してもらうために、「やまがたレトロ館絵地図」を作成しました。

平成14年8月18日に、この「やまがたレトロ館絵地図」をもとに親子でそれらの建物に触れてみようという講座「やまがたレトロ館めぐり」を開催しました。

参加者は10組24名の親子と歴史環境研究会の有志8名でしたが、出来るだけ多くものを見てほしいと考えたことから、文翔館(旧山形県庁舎)山形市郷土館(旧済生館)、山形県教育資料館(旧山形師範学校)の三つの建物を重点的に見学し、他はバスを使って外観だけを見ることにしました。この絵地図は、山形市中心商店街の循環バス(100円バス)を利用して歩きながら周れるように作成しており、参加した親子にも友人や家族とともに見学してほしいと願っています。

また、重点的に見学する建物についての平面計画やデザイン等についてのクイズを作成して、それに答えることで理解を深めることが出来るようにしました。日頃は街の中で何気なく見ている建物にも、よく見てみるといろいろな発見があることを体験してほしいのです。

さらに見学終了後アンケートに答えてもらったところ、レトロ館絵地図に載っている24棟の建築物の内、2、3棟しか知らなかった人が最も多くピーアール不足を感じました。また、見学した建物の中で文翔館(旧山形県庁舎)では内部のデザインに、山形市郷土館(旧済生館)では外部のデザインに関心が集まりました。県外からの友人を案内する時に1番のお勧めは、文翔館が回答者の7割と人気が高かったようです。レトロ館絵地図の建築物をうまく使い維持していくには、所有者への援助・協力と存在を知らしめることが重要だという回答が多かったようです。今回の講座で我々の作成した「やまがたレトロ館絵地図」がより多くの人(特に子供たち)に利用されることを願い、企画開催した建築学会山形支所に感謝致します。

「奥州街道まちたんけん」

渋谷セツコ (建築と子供たちネットワーク仙台)

平成14年7月31日、旧仙台城下の主要な街道である「奥州街道」に沿った堤町や通町に残る歴史的な街並みの魅力を発見しようと、子供と大人と一緒にまちを探検するワークショップ(東北支部・仙台市街並みデザイン課共催)が開催されました。参加したのは、小学生16名を含む55名の市民。東北大学大学院の永井康雄先生から、藩政時代のまちづくりや建築の特徴についてお話を聞き予備知識を入れたあと、気温32度を越す猛暑の中を、まちの中へ飛び出しました。インスタントカメラを使って「気に入ったもの」「気になるもの」を写真に撮りながら、五感を使って街並みを観察。ところどころでまちの人に触れ合いインタビューをしました。通町では、藩政時代から続いている

という「安田畳店」では、お店の小さな格子窓がついた屋根の低い2階建てのつくり方が、侍が通る街道を見下ろさないようつくられた工夫であることを聞いて、しばし昔に想いを馳せました。また、「升澤竹細工店」では、実際に竹を編む体験をしたり、仙台に3人しかいないという竹細工職人である升澤さんの、七夕の竹籠を目にも止まらぬ速さで編んでいく早業に「手品のようだ!」とびっくり。堤町の「佐大ギャラリー」では、約30年前まで堤焼をつくっていたという佐藤さんから、まちなに残る唯一の堤焼遺構である六連の登り窯をみせていただき、当時の焼物づくりのようすなどをお聞きしました。

その後、会場の通町コミュニティセンターに戻り、「古いたてものが、今でも残っていることがよかったから気に入りました」(小学5年)「昔にこんな建物の技術があるとは思わなかった」(小学5年)など、日頃気づかずに通り過ぎていたまちでのワクワクドキドキ体験を、仙台市長に報告しました。



「建物のひみつ『かたちとつよさ』」

倉田光春 (日本大学工学部)

- 「普段何気なく生活している建物、その建物にはたくさんの『かたち』と『つよさ』が潜んでいる。そんな建物のひみつを、子供たちに感じてもらおう」-

平成14年10月20日(日)、福島県郡山市ふれあい科学館スペースパークにて、「建物のひみつ『かたちとつよさ』」(講師:倉田光春・日本大学教授)を開催しました。午後1時半から二時間半にわたり、30名ほどの親子が参加しました。今回は原点回歸し、今まで行ってきた内容と、さらに新たな試みを加え、バラエティに富んだ講座になりました。

講義では、スライドを用いて身近にあるアーチ構造やラーメン構造について説明し、簡単な模型を使って参加者自身に『かたち』と『つよさ』を体験してもらいました。さらに、『かたちとつよさ』についてCGを制作し紹介しました。

今回、本講座のシンボルとして、紙を素材にI型の梁を

組み、多角形トラスのシェルを作りました。半径約2メートル、高さ約1メートルのものを作り、展示しました。紙という弱い素材にもかかわらず、大きな模型が作れるということを知ってもらいました。

はじめは静かに始まった講座が、時間が経つにつれて子供たちの楽しみの声があふれ、講座の最後には笑顔で記念写真の撮影ができました。

未来に大きな可能性を持つ子供たちに、本講座で建築というものに少しでも興味を持ってもらえるならば、開催者としてとてもうれしく思います。



第23回 東北建築賞(作品賞)選考報告

選考委員長 梅津 光男

1. 応募作品数

- ・小規模建築物部門： 4点
- ・一般建築物部門： 17点
- 合計： 21点

2. 選考経過

(1)事前打合せ(2002年9月18日、日本建築学会東北支部会議室)

応募作品の確認を行ったうえ、作品発表会の運営方法と審査基準など選考方法について審議し、いずれも規定と要項、また従来の方法にならうことを確認した。

(2)第1次審査(2002年10月5日、仙台市情報・産業プラザ(アエル6F)セミナールーム、同特別会議室)

応募作品の公開発表会(第13回「東北建築作品発表会」)の後、引き続き第1次審査の選考委員会を開催した。

選考する作品数や審査基準など選考方法についての再確認を最初に行い、その後、現地調査によって第2次審査の対象とする作品の選考を行った。この選考にあたっては、既に作品発表会における発表と質疑をとおして各作品についての理解がかなり深まっていることからただちに投票を行うこととした。なお、今回は応募作品数が少ないために小規模建築物部門と一般建築物部門に分けず、また各選考委員の投票作品数も決めずに投票を実施した。その結果に基づいて審議を行って、5票以上を得た9作品(小規模:2、一般:7)を選び、得票数4以下の作品には現地調査対象とすべき作品がないことを確認して決定とした。最後に、現地調査方法について審議し、作品ごとに担当者(1作品につき3名の選考委員)の選出を行うとともに、実施の手順などを検討した。

(3)現地調査

対象となった9作品の現地調査は、2002年10月下旬から2003年1月上旬にかけて、それぞれの担当者によって実施された。

(4)第2次審査(2003年1月11日、日本建築学会東北支部会議室)

最初に、各選考委員から、現地調査を担当をした各作品についてA・B・Cの3段階(A評価は東北建築賞に相応しい作品、B評価は審議により賞に入選可能な作品、C評価は賞に及ばない作品)で評価を行ってもらった。その結果に基づいて審議し、全ての委員がAと評価した一般建築物部門の3作品を作品賞とすることとした。次に、これらの3作品を除いた6作品を対象に、それぞれの担当委員からの現地調査報告と質疑応答を行い、審議の結果、3作品(小規模:1、一般:2)を作品奨励賞とすることとした。最後に、作品賞3作品と作品奨励賞3作品を全委員一致で決定、確認した。

3. 選考結果

【作品賞】

- ・福島県立郡山養護学校
設計監理:(建築)株建建築計画(構造)遠山一級建築士設計事務所(設備)株設備工学研究所
施主:福島県
施工:(建築)株オオバ・陰山組特定建設工事共同企業体(空調・衛生)株石田工業所、株内藤工業所(電気)ムツ電株
- ・太田総合病院附属看護専門学校
設計監理:(建築)株建建築計画(構造)遠山一級建築士設計事務所(設備)(有)甲斐設計事務所
施主:太田総合病院
施工:(建築)株間組東北支店(空調・衛生)日新設備株郡山営業所(電気)株ユアテック郡山営業所
- ・金山町立明安小学校
設計監理:(建築)株小沢明建築研究室(構造)松本構造設計(設備)株総合設備計画(外構)背景計画研究所(基本設計)、株青木測量設計事務所(実施設計・監理)
施主:金山町
施工:(建築本体工事)沼田建設株(機械設備工事)株ヒラタ住工設備(電気設備工事)東北電機鉄工株(外構工事)星川建設株

【作品奨励賞】

- ・有備館駅前広場「ユービック」
設計監理:(建築)ヴァルトプラッツ・杉山三浦徳徳(構造)NS設計/成田設計/安井浩工房(ワークショップコーディネータ)米倉慎真(アートコーディネータ)アートフロントギャラリー、(アーティスト)アン・グラハム オーストラリア
施主:岩出山町
施工:千田建設
- ・仙台弁護士会館
設計監理:(株)I N A 新建築研究所東北支店
施主:仙台弁護士会
施工:鹿島建設株式会社東北支店
- ・くりはら斎苑
設計監理:(株)関 空間設計 協力事務所(構造)株蔵 建築設計事務所(設備)株建築設備設計研究所
施主:栗原市或成町行政事務組合
施工:本体工事(建築工事・電気設備工事・機械設備工事・造成工事)清水建設株東北支店、外構修景等工事(外構工事・仮設建物工事・解体工事)矢崎建設株、火葬炉工事(株)宮本工業所

4. 講評

いずれの応募作品にも、設計者の新しい空間構成の試みとそのねらい、またその建築づくりに関わった多くの方々の熱意と努力が現れている。これらが、建築の使い手をはじめとする多くの人々の要求に沿ったものであればあるほど、その建築は、現代の社会と個々人の生活にとってリアリティーのある意義深いものとしていっそう輝いてくる。大変高い評価を得た入賞作品に限らず、惜しくも選外になった会津現代民家(設計監理:村松篤設計事務所、担当:村松篤)など、今回の応募作品には、このような輝きのある作品として評価すべき内容のものが少なくない。

<作品賞>

福島県立郡山養護学校

肢体不自由養護学校（小学部、中学部・高等部）として180名の生徒の学舎であるとともに、40名の寄宿舎を併せ持つ施設である。おおよそ1階分の段差のある敷地形状を巧みに利用し、2階建てでスモールスケールの建物群を連続させて配置している。寄宿舎においては、グループホームとして公私空間を段階的に組み合わせている。校舎においては小さなクラスルームが中庭、光井戸、トイレなどと有機的に組み合わせられ、クラスター状に連結している。いずれも、空間が個の領域から集団の領域へと巧みに広がり、かつヒューマンスケールを維持している。ホール・プレイルーム・スロープ・ヴォイド・ブリッジ・デッキなどが分節域に効果的に設けられている。それらは同時に中庭、光井戸そしてクリアストーリーなどから注ぐ光と影とともに様々なシークエンスを演出し、児童生徒の活動意欲を鼓舞しているように感じられる。養護施設として果敢な取り組みをしていることと同時に、繊細で美しい作品として高く評価できる。

太田総合病院附属看護専門学校

建築への姿勢を思い知らされる作品である。この建築には自在かつ大胆な空間が作られていることに驚かされる。「道」を意識した敷地周辺の環境への配慮とその活用。この作品の空間そのものを決定づけている構造へのデリケートな考え方。大きく開いた自然光の中で教室群と移動空間、吹き抜けなどのパブリック部分との違和感のない融合。地下1階への導入の演出、さらに光の取り入れ方。みごとにまとまった完成度の高い作品である。コストを意識した作品であることも伝わってくる。『構成すること』そのことで主な空間はほぼ決定づけられている。ていねいなディテールはいやみがなく、ましてやその空間構成をじゃますることはない。美しいスケルトンな建築と言ったら語弊があるか。看護師の学ぶ空間として開放的であり、清楚な好感のもてる学舎である。

金山町立明安小学校

地場の金山杉の活用と、来る時代に対応しうる少人数教育・地域社会との連携というコンセプトに明快に建築として応えた小規模小学校である。エントランスギャラリー棟、オープンスクール型の教室棟、食堂棟と空間的にも表情が異なる3棟が廻廊・中庭を囲みながら構成され、心地よい教育および生活空間をつくりだしている。教育と生活に広がりを与えるワークスペース・廻廊・中庭の連続的な計画、杉集成材による大架構、スリーヒンジ・トラスによる大空間の構成など様々な試みがされている。計画面での緻密さに加え、地元の技術・伝統に新たな可能性をもたらした杉集成材の活用とRCとの混構造は構造的にも見応えがある。

<作品奨励賞>

有備館駅前広場『ユービック』

伊達家の学問所「有備館」という伝統的施設の前でありながら、それに迎合することなく新しい形態・構造を取り入れ、なおかつ、木という素材を用いることによって歴史

的趣を表現することにも成功している。また地場のスギ材を活用し、金物などとハイブリッドすることにより、新たな木造架構を提案している点も高く評価できる。しかし、木材の乾燥不足により、建具のトラブルや隙間風が発生するなど、建築の品質として問題が生じている点は反省しなければならない。また、地域住民とのワークショップにより住民活動を支援する機能を取り入れたとのことであるが、現状では予想された利用が必ずしもなされていないようであり、計画段階でのプログラムが十分に詰められていなかった点も残念である。

仙台弁護士会館

弁護士会の活動の拠点、総合的な法的サービスの拠点となり、市民に身近な司法を実現する会館としての確に空間を創出している作品である。明快なプランのもと、アトリウムを中心に光と視線により室内外を効果的につなげ、明るく透明感がありかつ暖かみのある吹き抜け空間を形成し、テーマを具現化している。中層とした計画や街並みを映しこむファサードは仙台市街地のまちなみ形成への意識がうかがえる。なお施工の確実さ、管理の適切さは評価される点でもある。相談者の増加、会議室等の良好な利用状況は企画とその実施段階での的確さを示すものであろう。

くりはら斎苑

建物は周囲を松林に囲まれた広大な町営公園の中に立地し、風景として溶け込み、設計は恵まれた自然環境を十分に生かしている。正面出入り口・ファサード上部の大きな切妻屋根は栗原地方住宅の独特な屋根形式をシンボルとして取り入れている。内部空間は葬儀の流れ、石積みの納骨室を中心とした、会葬参加者の動線が良く検討されていることがうかがえる。伝統的な建築形態を継承しながら、ガラス、石木材、金属などの特性を有効に活用して、シンプルな中にも安らぎと静謐な空間を巧みに演出している。宮城県栗原地域10ヶ町村、広域行政の重要な施設、火葬・葬儀の場として、当初計画どおり、遅滞なく運営されているとのことである。

2002年（第23回）東北建築賞作品賞選考委員会

委員長 梅津 光男 地方計画部会（八戸工業大学建築工学科）
副委員長 若松 信行（社）日本建築家協会東北支部（株）若松六本木設計）

黒田 浩司 構造部会（日本大学工学部建築学科）
会沢 浩平 施工部会（東北文化学園大学環境計画工学科）
板垣 直行 材料部会（秋田県立大学建築環境システム学科）
若井 正一 建築計画部会（日本大学工学部建築学科）
小山 祐司 歴史意匠部会（東北工業大学工業意匠学科）
林 基哉 環境工学部会（宮城学院女子大学）
石井 敏 建築デザイン教育部会（東北工業大学建築学科）
渡辺 佐文（社）秋田県建築士事務所協会（株）渡辺佐文建築設計事務所）

井上 高秋 常議員（国土交通省東北地方整備局営繕部建築課）

<作品賞>「福島県立郡山養護学校」

<作品奨励賞>「有備館駅前広場『ユーピック』」

<作品賞>「太田総合病院付属看護専門学校」

<作品奨励賞>「仙台弁護士会館」

<作品賞>「金山町立明安小学校」

<作品奨励賞>「くりはら斎苑」

第13回東北建築作品発表会の報告

常議員 井上 高秋

第13回東北建築作品発表会は、平成14年10月5日(土)仙台市情報・産業プラザで開催された。発表作品は、小規模建築物部門の4点、一般建築物部門17点の計21点であった。

1作品あたり発表9分、質疑応答2分で進行し、約百数名の参加者の中、丁寧な説明と活発な質疑応答が行われた。発表では、的確に選別されたスライドの使用や、パソコン・ビデオプロジェクターを用いたプレゼンテーション等があり、作品説明への意欲が熱心な質疑応答につながるものとなった。また、当日後刻、作品賞選考委員会第1次審査会が行われ、発表全作品の中から、現地調査対象作品9点が選考された。

開催にあたって、日本建築家協会東北支部、東北各県の建築士事務所協会・建築士会、福島県建築設計協会及び東北建設業協会連合会より後援をいただき、滞りなく発表会が開催できた。感謝申し上げたい。

第22回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員 井上 高秋

第22回東北建築賞表彰式は、平成14年6月15日(土)に、岩手県公会堂大ホールで、「みちのくの風 2002 岩手」の一貫として、講演会「子供のための空間」に引き続いて開催された。

作品賞4点と作品奨励賞3点については菅野、業績賞1件については谷津、研究奨励賞3点については月永各選考委員長による審査講評が行われた後、鈴谷支部長から受賞者各位に賞状、賞杯が贈られた。

その後、作品賞・作品奨励賞7作品について、設計者による作品紹介、業績賞1件について、受賞者による事業紹介、スライド等を使って行われた。

東北建築賞受賞パネル展示会は、同日、同公会堂会議室で開催された。展示会を「みちのくの風 2002 岩手」の一貫のイベントとしたこともあり、終日、入場者数は良好であった。

なお、例年通り、東北管内の各支所においてパネルによる作品の巡回展示(一般公開)が実施される運びとなった。

日本建築学会「作品選集 2003」東北支部審査報告

東北支部審査委員長 相羽 康郎

上記審査結果の概要は以下のようになる。

審査日・会場：書類選考 7月19日(支部会議室)、現地審査 8月23日・24日(現地)

審査員名：相羽康郎、勝部民男、鹿戸 明、青木恭介、五

十嵐徹、月館敏栄、安原盛彦

応募数と選考結果：13点応募。Aランク2点/Bランク1点/Sランク(C)1点を支部として推薦(うち作品選集掲載3点)。

中小の公共施設主体13点の応募から全員で見学の7点、複数で見学のその他を分けた支部推薦枠7点のところ前者から厳選して4点に絞った。その中のS評価(際立って優れた部分のある作品)1点は、漫画家のスケッチが形となった建築で、図面と外観写真では分からないが、狭さや一部外観の不整合さより、マニアや一般の方にこれが良いと思わせる小振りさや熱い内部が評価された。本部では認められず、審査の流れの中でもっと用意周到に説明しなければと反省した。また作品集は印刷メディアなので、掲載されて読者から共感を得るには特別に説明が必要になるはずで、S評価については応募段階から、表現・審査をくふうする必要があろう。

2002年度東北支部研究報告会

常議員 沼野夏生

2002年度東北支部研究報告会は、2002年6月15日(土)・16日(日)の2日間にわたり、岩手県立大学(岩手県滝沢村)を会場として開催された。環境系、計画系、構造系の3会場それぞれ、午前中9時~11時50分の時間帯(両日とも)のほか、2日目の午後(13時~15時30分)にわたって、計124編の研究が発表された。一題あたりの持ち時間は発表7分、質疑3分、計10分であった。発表題数は前年度をやや下回ったものの安定した推移をみせており、支部における研究活動の層の厚さとひろがりあらためて印象づけた。研究論文は「日本建築学会東北支部研究報告集第65号」(構造系・計画系2分冊)に収録・刊行された。

会場数を3室に抑えて2日間とする形式への変更、PCプロジェクタの使用など、前年からの新機軸が引き続き採用された。なお今回は、東北各県での研究報告会を核として支部・支所活動の活性化や学会活動の社会還元をはかるという戦略のもとにスタートした「みちのくの風」シリーズの初回であり、そのメイン行事が初日午後に行われた。この会場が遠く移動に手間取るとい事情もあり、研究報告会参加者の交通・宿泊の便や研究報告会とメイン行事との一体性の確保などの点に課題も残された。

ともあれ、交通の不便などを差し引いても、発表の合間に岩手山を望む広々としたキャンパスの景観を楽しめた人は多かったのではないだろうか。岩手県立大学の関係各位をはじめ、研究報告会の準備と運営にあたられた方々に深く感謝申し上げたい。

2002年度日本建築学会東北支部

総会議事録

記録担当：松井壽則

日時：2002年5月25日(土) 午後3時50分より
場所：ハーネル仙台(仙台市青葉区本町2-12-7)
出席者：岩崎博支部長以下52名

資料：資料No.1： 日本建築学会東北支部年報第22号
資料No.2： 2001年度日本建築学会東北支部財産目録
2001年度日本建築学会東北支部収支決算書
会計監査報告書
2002年度日本建築学会東北支部収支予算書(案)

渡邊浩文常議員の開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、川股重也氏および小川淳二氏が選出された。

2. 支部長挨拶

岩崎博支部長の挨拶があった。

3. 出席者数および委任状の確認

出席者52名 委任状47通 合計99名の確認があり、東北支部会員1373名の1/30(45名)以上にあたるため、本総会が成立することが確認された。

4. 議事

東北支部規程により、岩崎博支部長が議長を務め、以下の事項について審議された。

(1) 2001年度事業報告

浅里和茂常議員より、資料No.1の支部年報18および19ページの「2001年度事業報告」にもとづき2001年度事業が報告され、承認された。

(2) 2001年度収支決算報告

鈴木利夫常議員より、資料No.2の1および2ページの「2001年度日本建築学会東北支部財産目録」および「2001年度日本建築学会東北支部収支決算書」にもとづき2001年度収支決算が剰余を含む黒字決算であったことが報告され、以下の質疑の後、承認された。

・質疑

剰余金は、本部からの還付金だけではなく、支部会計全体としての剰余ではないか。

・回答

そのとおりである。

・質疑

支部基金の累計額はいくらか。

・回答

2001年度末で、200万円である。

(3) 会計監査報告

土方吉雄支部監事より、資料No.2の3ページの通り2001年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告され、承認された。

(4) 2002年度事業計画(案)について

永井康雄常議員より、資料No.1の支部年報20および21ページの「2002年度事業計画(案)」にもとづき2002年度事業計画が説明され、以下の補足および質疑応答の後、承認された。

・補足

支部事業に特色ある支部活動・環境共生概念啓蒙のための子供向けワークショップ「クリマアトラスをつくる」を追加する。

新しい委員会として「災害調査連絡会」を追加する。

・質疑

事務の部・支部長改選の項が分かりにくい表現となっているので、改めたほうが良いのではないか。

・回答

次年度分の年報は、正確な表現とする。

(5) 2002年度日本建築学会東北支部収支予算書(案)について

相沢清志常議員より、資料No.2の4ページの「2002年度日本建築学会東北支部収支予算書(案)」が説明され、承認された。

5. 支部功労会員表彰

東北支部表彰規程により、個人会員8名、法人会員26社の表彰が行われた。

6. 設計競技「子どもの居場所」支部入選者表彰

北原啓司審査委員長の講評の後、小地沢将之氏の表彰が行われた。

以上で、司会者が閉会を宣言し、終了した。

以上

研究部会活動報告

歴史・意匠部会

部会長 **高橋恒夫**

2002年度の歴史・意匠部会の活動は幹事会2回、部会1回を開催した。このうち3月8日(土)に開催された部会にあわせて、当部会主催の研究会「考古学資料による建築史研究の成果と問題点」を外部からの参加者も含めて開催した。講師は東北芸術工科大学歴史遺産学科の宮本長二郎教授にお願いした。まず、建築史学の問題点として、現在の建築史は現存建築資料を中心としたもので、現存遺構の少ない被支配者層建築史の欠如を指摘された。次にこれを受けて、従来の研究を進める一方、遺構や資料の少ない中間支配者層、被支配者層の建築史を考古学資料で補う必要があることを力説された。また、過去2万年の建築史の確立や考古学、日本史学、民俗学の境界領域諸学の学際研究、さらにはアジア諸国との文化交流による日本建築への影響など研究のグローバル化も指摘された。なお2003年度は「東北地方の歴史的建築に関する基本情報のデータベース構築の研究」を支部研究補助を受けて行う予定である。



建築計画部会

部会長 **若井正一**

本年度は、前年度に実施した見学研究会「学校建築の今・これから」のシリーズ第2弾として、見学研究会「続 学校建築の今・これから」を平成14年7月12日(金)13日(土)の2日間にわたって開催した。特に、本年度から学校教育の現場では完全週休2日制がスタートして、新たな学習指導要領のもとにゆとりある教育などが模索されている。今回の見学先は、数々の建築賞を受賞している福島県棚倉町立社川小学校と、JR東日本総合研修センターの2箇所であった。なお、研究会は、社川小学校校舎のほ

ぼ中央に位置する音楽室を会場として、下記の講師陣によって3名の鼎談形式で開催された。

- 1) 主旨説明 若井正一(部会長・日本大学教授)
- 2) 社川小学校設計者の立場から
近藤道男(近藤道男設計室主宰)
- 3) 学校建築研究者の立場から
関沢勝一(日本大学理工学部教授)
- 4) インテリア色彩研究者の立場から
日原もとこ(東北芸術工科大学教授)

研究会の参加者は、一般会員や大学院生など約40名で、その中には関東支部や九州支部所属の会員もいた。研究会に先立って同校舎内の見学を2班に分かれて実施した。見学終了後、各講師はそれぞれの立場から社川小学校の設計趣旨や最近の学校建築に対する所感や提言を自由に発言いただき、それらをもとに鼎談を進めた。参加者からは、オープンスクールにおける音の問題など活発な質疑応答があった。第1日目の見学研究会終了後、多くの参加者は近くの温泉施設に宿泊して、講師陣を交えた懇親交流会が開催された。第2日目は、JR東日本社員の能力開発支援を目的に白河市近郊の県立南湖公園に隣接して建設された大規模研修施設「JR東日本総合研修センター」を見学した。参加者の多くは、施設規模の大きさと新幹線の運転席を再現したシミュレーション装置などに関心を持った様子であった。

地方計画部会

部会長 **相羽康郎**

昨年度からの継続として、「東北のまちとまちづくり」について、メールによる情報交換および、作業体制を整備した。本年度新たに執筆者とテーマを委員から提案してもらったうえで、電子メールで直接入力できるフォーマットを作成し、これによる入力を継続している。フォーマット作成および入力するホームページの提供を、松村先生(東北芸術工科大学)のところで行ってもらっている。このフォーマットは、文章と写真をそれぞれ送付してもらおうと、受信した側で編集が容易にでき、ホームページとして、アクセスできる体裁になる仕組みである。ある程度内容が揃ってきたら、学会東北支部のホームページとのリンクないしはそちらへの移設を希望している。またこの作業は、2003年度も継続していくことをお願いしている。

こうした情報発信の方法は従来の報告書づくりと異なり、いわばエスキース段階から情報媒体として流通することも可能である。そこで、作業のプロセスにあたる段階を松村先生のホームページとしておき、これにすべての事例を掲載した上で、アクセス頂いた関係各位の評価をもとに少し内容を取捨選択した結果を、学会支部のホームページに移設する方法とするのが良いかも知れない。ないしは、年度ごとに更新することを想定し、次の年度の掲載継続について、そのような方法とするのが適切かも知れない。また、元のホームページには、すべての事例が保全されているも

の souhaitei.

本年度の活動はメールによる情報交換しかできなかった。新年度からの活動においては、直接集まる機会を支部発表会などの機会を捉えて実践して頂けるよう、勝手ではありませんがお願い致します。

構造部会

部会長 小川 淳二

2002年度構造部会では、テーマ:「建築技術における新しい試み」を掲げ、3回の部会を開催して構造技術に関する最近の話題についての情報交換および意見交換を行った。

2002/5/10に開催された第1回の部会では、UC BerkeleyのJack Moehle教授を招き、「アメリカにおける性能規定型設計法の開発の現状」と題した特別講演会を開催した。講演では、設計法の目的・考え方から具体的な設計手法、実設計例やコストスタディに至るまでの、非常に興味深く有益な情報提供がなされ、公演後活発な意見交換が行われた。参加者は部会委員を含め21名であった。

第2回の部会は、2002/11/7~8に開催された秋田県立大学第2回国際サイエンスフォーラムへの参加という形で行われた。このフォーラムにおいて、当部会9名の委員から最近の研究や構造に関する話題、近年改訂された基規準などについての発表が行われた。なお、詳細については<http://www.aki-ta-pu.ac.jp/system/isf/>をご覧ください。

第3回の部会(2003/3/10)では、東北支部災害調査連絡会委員長でもある田中礼治委員から同連絡会の概要が説明され、来年度行われる活動計画案作成作業時に主要なWGメンバーとなる構造部会委員各位に対して協力要請がなされた。また、連絡会についての意見交換も行われた。

また、2002年度学会支部研究補助費を受けて「地震マイクロゾーンেশョン地図を用いた地震防災に関する調査研究」が行われ、その報告書を刊行した。報告書では秋田県本荘市の事例を取り上げているが、他の地域においてもここでの成果が適用可能であると考えられる。

環境工学部会

部会長 内海 康雄

1. 部会の開催

4/22(月)第1回12名出席。7/30(土)第2回5名出席。12/9(月)第3回7名出席。3/19(水)第4回5名出席。

2. 研究会の開催

4/22(月)第36回東北環境設備研究会「東北地方におけるビルの環境管理システム 室内環境から省エネまで」参加者97名

7/6(土)第37回東北環境設備研究会「地球環境建築憲章と

環境建築」参加者102名

7/30(火)第38回東北環境設備研究会「工場の換気や空調をめぐる諸問題について」参加者90名

8/24(土)第39回東北環境設備研究会「建築部材の構成と換気システムの稼働状況が空気質に与える影響について」参加者50名

1/29(水)第40回東北環境設備研究会「空気調和・衛生産業の今日的課題」参加者55名

2/18(火)市民向け公開講座「暮らしの中の安全と衛生、そして健康」

3. 見学会の開催

7/12(金)本荘地方合同庁舎、参加者105名

10/21(月)仙台駅ビル見学会、参加者35名

11/25(月)東北電力本社ビル見学会、60名。(写真参照)

1/21(火)東北初の高層免震マンション見学会、53名。

4. その他

環境工学部会環境教育ワーキンググループが「環境共生概念啓蒙のための子供向けワークショップ クリマアトラスをつくる」のテーマで、秋田、山形、福島、原町で活動した。今後の環境工学部会の長期計画として、次の2つの項目を考える。

- 1) 計画・意匠系と環境系のつながりを求める。
- 2) 建築学会東北支部以外の団体(JIA、建設業協会、事務所協会など)との横のつながりを求める。



写真 東北電力本社ビル見学会

材料部会

部会長 月永 洋一

研究課題は「建築材料学の教育ツールに関する調査研究」であり、一昨年からの継続課題である。本課題においては、技術者教育認定制度を見据え、現在の建築材料学教育を再考するとともに、新たな視点から整理・分析し、建築材料学教育のための教材と教育プログラムについて検討した。

今年度は、次に示す計6回の部会を開催した。

- 第1回部会：2002年6月15日、岩手県立大学
 第2回部会：2002年9月6日、学会支部事務局
 第3回部会：2002年11月22日、学会支部事務局
 第4回部会：2003年1月10日、学会支部事務局
 第5回部会：2003年2月3日、仙台ビジネスホテル
 第6回部会：2003年3月4日、学会支部事務局

以上の部会において集中的に検討した課題は、建築材料学のありかたである。建築材料は建築を構成する原単位であり、これまでにおいては材料そのものの物性を中心に論じられることが多かった。しかし、今日では建築材料の多種・多様化が進み、同時に建築には新たな機能が要求されるようになってきたため、建築材料を単体として論ずるだけでは限界があり、効率的ではない。このような問題提起から、これを解決するためには、建築材料の集合として構成される部位および部位の集合として構成される建築の性能との関係から建築材料をとらえることが有効であることが認識された。この考え方を基本として建築材料学のありかたを論じ、教材および教育プログラムの具体的内容について検討した。

施工部会

部会長 山田 大彦

平成14年度、3回現場見学会を開催した。内容は、制振システムの事例2件（東北工業大学新研究棟：仙台、N T T ドコモ新築棟：仙台）プレキャストコンクリート構造における厚着接合工法の事例1件（東北工業大学新講義棟：仙台）、省エネルギー設備の事例1件（東北電力新棟：仙台）逆打ち工法の事例1件（N T T ドコモ新築棟：仙台）で、新しいアイデアに富んだ事例を見学でき、参加者には大変好評であった。これらを実施するに当たり、受け入れ側からは、計画、設計、施工、運用状況にわたって詳細な説明をいただき、見学後熱心な質疑応答があった。関係各位に改めて感謝の意を表する次第である。

平成14年度より、新しい事業を計画し、実施に入った。それは、部会構成委員はもとより、必要であれば外部から講師をお招きし、新しい構法・工法や施工事例とその成果などの発表会を順次開催することであり、年度内に1回目を開催した。以後、定期的開催を予定している。会員各位のご参加を期待している。

建築デザイン教育部会

部会長 伊藤 邦明

世界的に教育分野での説明義務 (accountability) が問われるなかで、日本においても工学分野の認証制度 (accreditation) が、スタートすることになった。即ち、JABEE (Japan accreditation Bureau of Engineering Education) - 日本工学教育認定機構 - である。日本建築学会

が建築分野の認証事業を担当することが決まっており、その活動がすでに始まっている。この動きに関しては、数年に渡り、当部会は本部関連委員会に積極的に提言を行ってきた経緯があり、また毎年の活動報告を通して情報提供を行ってきた。

本年は特に来年度の本格的認証制度への移行を控え、試行を受けた千葉大学建築学科、日本女子大学住居学科および金沢工業大学建築学科および居住環境学科の中から、千葉大学建築学科の服部宥生教授を招き、シンポジウムを行った。情報の錯綜する中で具体的な作業を行い、また認証の試行を受けた経験を語っていただき、また多くの質問にも率直にお答え頂いた実り有る会となったことに、先生には改めて感謝する次第である。

この会にはオブザーバーとして、千葉大学の試行に参加した郵政省、南一誠氏にもご参加を頂き、活発な議論に加わって頂いた。そのなかで、最も関心を引いたのは、やはり自己評価申告書の作成作業のノウハウであった。膨大な作業をいかに能率よく、しかも意味の有る形で分かり易く纏めるかのテクニックである。服部先生の経験を総合すると、やはり日頃のチームワークや纏めの習慣のないところは、相当な難事業に遭遇することが予想される、ということである。(伊藤邦明)



写真-2003年3月5日の東北大学建築学科におけるシンポジウム風景

災害調査連絡会

委員長 田中 礼治

本災害調査連絡会の目的は、「東北地域における地震および各種災害が発生した際の調査・広報などに関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援を行う」ことである。

組織としては、東北支部の各部会が全て参加している。各部会から推薦された委員で構成される連絡・調整幹事会がある。

2002年7月9日に「東北支部災害調査連絡会の活動に対する御意見を頂戴する会」(御案内先：浅里和茂(日大))

岩崎 博(日大) 小川淳二(秋田県立大) 柴田明德(東北学園大) 鈴谷二郎(東北工大) 源栄正人(東北大) 山田大彦(東北大)を開催した。そこでの意見をもとに2003年2月3日に第1回の連絡・調整幹事会を開催した。幹事会において次のことが確認された。

活動の種類

- 1)災害前の活動(常時の活動)
- 2)災害後の活動(非常時の活動)

災害前の活動

- 1)災害調査対策
- 2)災害軽減対策
- 3)災害意識風化防止対策

災害後の活動

- 1)災害調査活動
- 2)災害時における社会への支援活動

以上の検討をするに当たり、災害前の活動ワーキング(主査:田中礼治(東北工大))、災害後の活動ワーキング(主査:源栄正人(東北大))のワーキングを設置した。

今後は、ワーキングの報告を受けて審議後2003年度以降の活動方針を2003年6月頃 に作成する予定である。

支所だより

青森支所

支所長 松代 眞

2002年度の青森支所の活動状況について報告します。

まず、6月に幹事会を開催し、今年度の事業計画を検討し「全員協議会」、「東北建築賞受賞作品展示会」及び「親と子の建築講座」の開催を決定いたしました。

7月には恒例の全員協議会を開催し、幹事会で決定しました事業計画等を報告し、会員に協力をお願いするとともに親睦を深めたところであります。

また、7月28日(日)には昨年度に引き続き、県立弘前工業高等学校との共催で「親と子の建築講座」を開催しました。今年度は、親と子が力を合わせて強度のしっかりしたドーム型のダンボールハウスを制作し、強い構造の仕組みを理解してもらうことを目的に“巨大ダンボールハウスを造ろう”をテーマに、当日は50名の親子の参加をいただき、驚きと感動のうちに終了することができました。

2003年度も引き続き、この講座を開催し多くの子供たちに、建築の持つ魅力などを伝えていきたいと考えております。

さらに、10月には「東北建築賞受賞作品展示会」を八戸工業大学で開催し、好評を博したところであります。

また、来年度の6月14日(土)・15日(日)の2日間、支部研究報告会及び関連イベントで構成される「みちのくの風 2003 青森」が青森市で開催予定であります。当

支所でも関係団体との連携を図りながら、協力・支援したいと考えているところであります。

秋田支所

支所長 呉 祐一郎

2002年度の秋田支所の活動状況について報告します。

今年度も、本支所の主催で県や関係団体の後援を得て県内の高校生、大学・専門学校生

による建築設計作品コンクールを開催しました。今年で第31回目の開催となり、各校より選抜された19作品の応募がありました。日頃の研究研鑽の成果を十分うかがわせる、完成度の高い作品間の競技となり、その中から知事賞や建築学会支部長賞などを決定し授与しました。受賞した作品は報道機関に取り上げられ、平成15年3月1日から5日まで秋田市の「けんみん住宅サロン」で行なわれた作品展示会には、多数の来場者を集めることとなりました。

コンクールの表彰式後は、本支所と県内建築関係団体とが初めて共催する事業として、「民家型耕法の家づくり」と題する講演会を行い、講師には(株)現代計画研究所の代表・藤本昌也氏を招きました。講演会は約200名の参加を集め、環境や地域に根ざした住まいづくりという時宜を得た内容であったことから、一般の方の参加者からも好評を博すことができました。

また、平成15年3月7日から16日には「第22回東北建築賞作品展」を「けんみん住宅サロン」で開催し、多数の方に来場いただき、好評のうちに作品展を終えました。

今後とも関係団体や学校・研究所との連携を深めながら地域に根ざした支所活動を進めてまいりたいと思います。

岩手支所

支所長 村主 英明

2002年度の岩手支所の活動状況について報告します。

今年度は、(社)日本建築学会東北支部と岩手県の共催により、「みちのくの風2002岩手」が6月15日(土)~16日(日)の2日間にわたり本県において開催され、「第65回東北支部研究報告会」、「子どものための空間」がテーマの「リレー講演会」、「第22回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会」が岩手県立大学と岩手県公会堂を会場にそれぞれ開催されました。

県公会堂の会場では、岩手支所主催による「第22回東北建築賞パネル展」と「岩手の子どもランド展」も併催することができ、県内外から会員や一般の方々など多数の来場者をお迎えすることが出来ました。

支部のご支援をいただいて開催されたこのイベントにより、一般の方々へ学会への理解を深めていただくとともに、学会活動の社会還元行事として、支所として近年にない充実した活動を実践できたと思っております。

また、11月19日(火)には、恒例の盛岡市主催、当支所後援による「第26回盛岡市都市景観シンポジウム」が都南文化会館「キャラホール」で開催され、約490名の参加者を迎えております。

都市景観賞の表彰式の後「広がり変化する盛岡の都市景観」～新しい魅力をもつ、まちの風景を求めて～と題し、これからの盛岡の景観について、熱心なパネルディスカッションが行なわれました。

今後、学会と地域社会との交流を目的とした諸事業を積極的に開催し、建築学会の役割への理解を広く求めてまいりたいと考えております。

山形支所

支所長 藤田 昭治

2002年度の山形支所の活動状況について報告いたします。

8月中旬、「第1回親と子の建築講座」を開催し、11組38名の方々に参加していただきました。今回は山形市内の歴史的建造物を、オリエンテーション形式で見学するものでした。毎日見慣れた街並みでも実はおもしろい建物がたくさんあり、子供たちだけでなく大人にも身近な建物に興味をもってもらえるような機会になったのではないかと思います。

また11月上旬には、「第2回親と子の建築講座」を開催し、12組24名の方々に参加していただきました。第2回のテーマは建築CADによるアニメーション作成で、小住宅モデルを基に内観パース、外観パース、最終的にはウォークスルーアニメーションまでの操作を体験してもらいました。子供たちは難しいCAD操作にもすぐに慣れ、自分の住みたい部屋など、デザインに凝る子供たちもあり、終了予定時刻を上回るといった状況でした。

続いて1月下旬には恒例となりました「東北建築賞受賞作品展示会」を開催しました。今年度は展示場所を東北芸術工科大学とし、多くの方々のご来場をいただきました。

来年度は、好評だった「親と子の建築講座」の3次元CAD操作体験を引き続き実施する予定です。そのほかにも、一般の方々の建築に対する関心がふくらむような、楽しい企画を検討したいと思います。

今後とも、関係団体の協力をいただきながら、各企画を活発に進めていきたいと思っております。

福島支所

支所長 鈴木 康之

平成14年度は、支所長としての初年度となりました。

福島支所ではこれまで、「優れた建築との接点の探求」「親しまれる学会」を目指してまいりましたが、これからもこの基本姿勢を踏襲しつつ、これに合致する新たな事業展開も模索してまいりたいと考えております。

さて、当支所の活動状況であります。昨年10月、これまでの事業の継続を図り、建築文化週間において「建築を創る環境講座」を開催いたしました。

本講座では、「建築の可能性」と題した元倉眞琴さんの講演、模型づくりのプロである佐藤実さん及び富樫龍男さんを講師とする建築模型づくりを実施しましたが、学生を中心とする多くの若者に参加をいただき、非常に活気に溢れた1日となると同時に、建築の道を目指しているという若者達との出会いから、一人でも多くの市民と建築を結びつける架け橋となっていくことが支所活動の大きな柱であるということ再認識いたしました。

今年度は、本講座を主要事業とし、残念ながら新規事業等の実現には至りませんでした。前述した支所の基本姿勢を原点に据え、より多くの優れた建築、そして幅広く一般の方々との接点を見出していくため、各種関係団体や教育機関等とも連携を図りながら、新年度以降も各種事業に取り組んでまいりたいと考えております。

地域における我々の活動は、かなり地味なものになるかもしれませんが、細く長く継続を重ね、いずれ多くの人々に親しまれる「福島支所」となることを願っています。

常議員会から

常議員 松井 壽則

常議員会は、総会に次ぐ支部の意志決定機関で、支部長と選挙により選出された14名の常議員で構成され、必要に応じ、支部長より任命された若干の企画運営委員、監事、支所長及び事務局の出席を得て開かれる。一昨年度より行なわれているメーリングリストを用いた「ネットワーク会議」は、重要議案の少ないと予想される月の常議員会に行なっている。ただし、支部長と総務・企画担当常議員で構成される総務会は例年通り常議員会に先立って行なわれ、かつ毎月行い支部運営に支障をきたさないよう努めている。

ここ数年来の懸案である財政問題、支部・支所活動の活性化は、本年度も大きな課題であるが、財政問題に関連しての策定と活性化に対する幾つかの事業を企画から実行へと移行させた。

「委託研究取扱規定の制定」

委託研究取扱規定が平成14年11月25日に開催された常議員会にて決定し、同日施行された。それにより委託研究費の一般経費が支部会計に組入れられることになった。

「みちのくの風」

2002年度より新たな事業として、東北支部研究報告会に併せて企画された「みちのくの風 2002 岩手」は岩手県公会堂を会場として、支所並びに建築関係団体の協力を得て開催された。第1部では「子どものための空間」をキーワードに4名の講演者が話題提供を行ない、第2部では東北建築賞表彰式と作品賞受賞記念講演会が行われた。

2003年度は「みちのくの風 2003 青森」として青森県立保健大学で開催する予定である。

「支部総会+シンポジウム」

2002年総会から市民向けのシンポジウムを総会終了後に開催するとの企画を受け、「東北の地域性と地震災害～来るべき地震災害に備えて～」と題して行われた。

2003年には「東北の気候とこれからの住まい」をテーマとして、市民向けの内容で行う予定である。

以下は常議員会の主な議題である。

- 【2002年4月】支部年報の編集状況、支部研究報告会の進捗状況、支部功労会員の表彰、災害調査連絡会内規、会長支部訪問の日程、文部科学省科学研究補助費の採択の報告
- 【5月】次期支部長・常議員選挙開票報告、総会および懇親会の準備状況、新常議員の役割分担、東北建築賞選考委員（常議員枠）年間行事予定、みちのくの風 2002 岩手の進捗状況、事務局職員の処遇、支部WEBの内規
- 【6月】みちのくの風 2002 岩手報告、「作品選集 2003」作品応募リスト、支部HP掲載および掲載原稿に関する規定
- 【7月ネットワーク会議】会長記念講演会の報告、日本建築

学会設計競技「外国人と暮すまち」支部審査、学術推進委員会における調査研究活動活性化検討項目、委託研究取扱規程

- 【9月】東北建築作品発表会の準備状況、「作品選集 2003」支部選考結果報告、選挙管理委員会の設置、支部事業促進費の申請、2003年度支部研究報告会並びにみちのくの風 2003、支部総会後のイベント
- 【10月ネットワーク会議】第4期代議員および支部役員の選挙日程、東北建築作品発表会の報告、2003年度支部研究報告会の会場、支部研究報告会論文募集要項
- 【11月】2003年度日本建築学会設計競技東北支部審査員、平成15年度科学研究費補助金研究成果公開促進費計画調書申請、「作品選集 2004」支部審査員の選定、代議員・常議員候補者届出状況、2003年度特色ある支部活動企画の募集、委託研究取扱規定、平成15年度支部総会後のイベント、2003年度支部研究報告会
- 【12月】常議員・代議員の候補者届出報告、2003年度支部研究補助費の申請、みちのくの風 2003 青森、
- 【2003年1月】東北建築賞作品賞選考委員会からの報告、支部年報第23号発刊計画、みちのくの風 2003 青森、平成15年度支部総会後のイベント
- 【2月ネットワーク会議】支部研究補助費の申請報告、災害委員会への委員推薦、総会付随行事の進捗状況
- 【3月】第23回東北建築賞選考結果報告、全国大学・高専卒業設計展の日程、支部功労会員、研究報告会発表台数、支部総会並びに付随事業、みちのくの風 2003、第24回東北建築賞応募要領

支部役員名簿

東北支部常議員・企画運営委員の構成と役割分担

役割	2002年度 (2002年6月～2003年5月)	2003年度 (2003年6月～2004年5月)
支部長	鈴谷二郎 (東北工業大学)	鈴谷二郎 (東北工業大学)
総務企画	永井康雄 (東北大学) 持田 灯 (東北大学) 最知正芳 (東北工業大学) 松井壽則 (日本大学)	最知正芳 (東北工業大学) 松井壽則 (日本大学)
社会文化	高島成侑 (八戸工業大学) 御供政敏 (エムアイティ建築研究所) 井上高秋 (国土交通省)	御供政敏 (エムアイティ建築研究所) 井上高秋 (国土交通省)
学術教育	松本真一 (秋田県立大学) 沼野夏生 (東北工業大学) 野崎淳夫 (東北文化学園大学)	野崎淳夫 (東北文化学園大学)
会計会員	相沢清志 (仙台市) 渡邊隆一 (JR 東日本)	渡邊隆一 (JR 東日本)
図書情報	SanjayPAREEK (日本大学) 金子佳生 (東北大学)	金子佳生 (東北大学)
企画運営	細田洋子 (仙台市)	細田洋子 (仙台市)
事務局	伊藤章子	伊藤章子
新常議員 (2003年 6月1日 就任)		石井 敏 (東北工業大学)
		カルキ マダン ハルジル (秋田県立大学)
		澤田紘次 (八戸工業大学)
		高砂秀敏 (仙台市)
		飯藤将之 (宮城高専)
		前田匡樹 (東北大学)
		渡澤正典 (日本大学)

東北支部会員数(2003年4月1日現在)

名誉会員	1名	準会員	0名
終身会員	41名	賛助会員	16法人
正会員(個人)	1225名		
正会員(法人)	88法人		

東北支部監事

2002年6月～2003年5月

滝田 貢(八戸工大)
鈴木利夫(JR 東日本)

2003年6月～2004年5月

鈴木利夫(JR 東日本)
相沢清志(仙台市)

東北支部選出代議員

任期	代議員
2002年4月 ～ 2004年3月	狩野勝重(日本大学教授) 鈴木利夫(JR 東日本(株)東北工事事務所建築課長) 飯淵康一(東北大学教授) 阿部良洋(東北工業大学教授)
2003年4月 ～ 2005年3月	小林 淳(秋田県立大学教授)) 玉井龍男(東北地方整備局営繕部長) 伏見義則(仙台市都市整備局指導部建築構造室長) 若井正一(日本大学教授)

研究部会長

研究部会	部会長(2003年度)
構造	井上範夫(東北大学教授)
材料	山田寛次(秋田県立大学教授)
建築計画	小野田泰明(東北大学助教授)
地方計画	増田 聡(東北大学教授)
歴史意匠	月館敏栄(八戸工業大学教授)
施工	山田大彦(東北大学教授)
環境工学	持田 灯(東北大学助教授)
リサイクル教育	伊藤邦明(東北大学教授)
災害調査連絡会	田中礼治(東北工業大学教授)

支所長

支所	支所長(2003年度)
青森支所	松代 眞(青森県土木部建築住宅課長)
秋田支所	呉 祐一郎(秋田県建設交通部参事)
岩手支所	村主英明(岩手県土木部建築住宅課長)
山形支所	藤田昭治(山形県土木部建築住宅課長)
福島支所	岩並治夫(福島県土木部建築領域建築住宅企画グループ参事)

日本建築学会東北支部

自 2002 年 4 月 1 日

2002 年度事業報告

至 2003 年 3 月 31 日

事務の部

総 会	1. 2001 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2002 年度事業計画・予算案 3. その他(出席者 99 名、委任状含)	2002 年 5 月 25 日 ハーネル仙台
諸 会 合	総会(1) 常議員会(11) 支所長会議(1) 東北建築賞作品賞選考委員会(3) 選挙管理委員会(1) 作品選集選考委員会(1)	()は回数
代議員半数改選	(留) 遠藤延安、小川淳二、出村克宣、寺本英治 (新) 狩野勝重、鈴木利夫、飯淵康一、阿部良洋	2001 年 4 月～2003 年 3 月 2002 年 4 月～2004 年 3 月
支部長改選	(退任) 岩崎 博 (新任) 鈴谷二郎	2000 年 6 月～2002 年 5 月 2002 年 6 月～2004 年 5 月
常議員半数改選	(留) 相沢清志、SanjayPAREEK、高島成侑、永井康雄、沼野夏生 松本真一、持田 灯 (新) 井上高秋、金子佳生、最知正芳、野崎淳夫、松井壽則 御供政敏、渡辺隆一	2001 年 6 月～2003 年 5 月 2002 年 6 月～2004 年 5 月
企画運営委員	細田洋子	2002 年 6 月～2003 年 6 月
支部 監 事	滝田 貢、鈴木利夫	2002 年 6 月～2003 年 5 月

支部事業

研究委員会 並びに委員 会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造：小川淳二 構造技術における新しい試み 材 料：月永洋一 建築材料学の教育ツールに関する調査研究 建築計画：若井正一 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画：相羽康郎 東北のまちづくり 歴史意匠：高橋恒夫 歴史的建築総目録作成 環境工学：内海康雄 建築の省エネルギーに関する調査研究 施 工：山田大彦 新材料・工法と施工技術 建築デザイン：伊藤邦明 建築設計教育の充実を世界的観点から 再調査する 災害調査連絡会：田中礼治	
支部研究助成 金による研究	地震マイクロゾーンেশョン地図を用いた地震防災に関する調査研 究 - 秋田県本荘市の地盤・木造建物の微動観測 - 構造部会(研究代表者 小川淳二)	2002 年 4 月～2003 年 3 月
特色ある支 部活動	環境共生概念啓蒙のための子供向けワークショップ「クリマアトラス をつくる」(事業体制 WG 渡辺浩文、持田 灯、松本真一など)	2002 年 4 月～2003 年 3 月
支部研究報告会	2002 年度東北支部研究報告会、研究報告集第 65 号刊行 発表題数 124 題	2002 年 6 月 15 日～16 日 岩手県立大学
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 「仙台まちかど博物館フォーラム」(仙台市) 「建築を創る環境講座」(福島市) 2) 第 13 回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市) 出品 21 点 3) 第 23 回「東北建築賞」の選考 作品賞 3 点、作品奨励賞 3 点 2. 支部共催 1) 親と子の建築講座 郡山会場「建築のひみつ“かたちとつよさ”」	2002 年 10 月 15 日～30 日 2002 年 10 月 26 日 2002 年 10 月 5 日 2003 年 1 月 11 日 2002 年 10 月 20 日

	仙台会場「奥州街道まちたんけん 通町から堤町まで」 弘前会場「ダンボールハウスを造ろう」 山形会場「コンピューターを使って家をデザインしよう」 山形会場「やまがた建物めぐり 歴史的建物を歩く」 2) 第22回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、八戸市、秋田市、郡山市	2002年7月31日 2002年7月28日 2002年11月9日 2002年8月18日 2002年10月～2003年3月
研究部会主催	(事業多数、各研究部会活動報告参照)	
表彰	1. 第22回東北建築賞 作品賞 4点、作品奨励賞 3点、業績賞 1点、研究奨励賞 3点 2. 支部功労会員 (個人) 阿部英夫、大濱嘉彦、小栗治男、黒田浩司、柴田明徳 鈴谷二郎、関 信男、橋本 寛 (法人賛助) 30年以上継続 18社、20年以上継続 8社	2002年6月15日 岩手県公会堂 2002年5月25日 ハーネル仙台
支所活動	青森支所 ・全員協議会 ・第22回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・親と子の建築講座「ダンボールハウスを造ろう」：弘前市 秋田支所 ・役員会 ・第31回建築学科生徒による建築設計作品コンクール：秋田市 ・第22回東北建築賞作品展示会：秋田市 岩手支所 ・第22回東北建築賞作品展示会：盛岡市 ・第29回県内工業高校生徒設計製図作品コンクール後援 ・第33回県下工業高校設計作品コンクール：盛岡市 山形支所 ・第22回東北建築賞作品展示会：山形市 ・親と子の建築講座「コンピューターを使って家をデザインしよう」 「やまがた建物めぐり 歴史的建物を歩く」：山形市 福島支所 ・第22回東北建築賞作品展示会：郡山市 ・親と子の建築講座「建築のひみつ『かたちとつよさ』」：郡山市	2002年10月 2002年7月28日 2003年2月 2003年3月 2002年6月15日・16日 2003年2月 2003年2月 2003年1月 2002年11月9日 2002年8月18日 2002年2月 2002年10月20日
刊行活動	支部年報第22号発行 東北支部研究報告集第65号発行 東北建築作品集(第13号)発行	2002年5月25日 2002年6月15日 2002年10月5日

支部共通事業

講習会	1) 木造建築物等の解体工事施工指針(案)・同解説講習会 2) JASS5 鉄筋コンクリート工事改定、JASS10 プレキャスト鉄筋 コンクリート工事改定講習会	2002年11月26日 仙台市情報・産業プラザ 2003年2月7日 ハーネル仙台
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 仙台市、八戸市、郡山市、山形市、本荘市	2002年7月～2003年1月
審査会	1) 2002年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：「外国人と暮すまち」応募なし	

日本建築学会東北支部

自 2003 年 4 月 1 日

2003 年度事業計画（案）

至 2004 年 3 月 31 日

事務の部

総 会	1. 2002 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2003 年度事業計画・予算案	2003 年 5 月 24 日 仙台市情報・産業プラザ
諸 会 合	総会（1）常議員会（11）支所長会議（1）東北建築賞作品賞選考委員会（3）東北建築賞研究奨励賞選考委員会（1）東北建築賞業績賞選考委員会（2）設計競技審査会（1）選挙管理委員会（1）作品選集選考委員会（2）	（ ）は回数
代議員半数改選	狩野勝重、鈴木利夫、飯淵康一、阿部良洋 小林 淳、玉井龍男、伏見義則、若井正一	2002 年 4 月～2004 年 3 月 2003 年 4 月～2005 年 3 月
支部長改選	鈴谷二郎	2002 年 6 月～2004 年 5 月
常議員半数改選	相沢清志、SanjayPAREEK、高島成侑、永井康雄、沼野夏生 松本真一、持田 灯 井上高秋、金子佳生、最知正芳、野崎淳夫、松井壽則、御供政敏 渡辺隆一 石井 敏、加キ- マン パル、澤田紘次、高砂秀敏、飯藤将之 前田匡樹、渡澤正典	2001 年 6 月～2003 年 5 月 2002 年 6 月～2004 年 5 月 2003 年 6 月～2005 年 5 月
企画運営委員	細田洋子	2003 年 6 月～2004 年 5 月
支 部 監 事	鈴木利夫、相沢清志	2003 年 6 月～2004 年 5 月

支部事業

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造：井上範夫 構造技術における新しい試み 材 料：山田寛次 新たな建築材料学教育のための調査研究 建築計画：小野田泰明 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画：増田 聡 東北のまちとまちづくり 歴史意匠：月館敏栄 歴史的建築総目録作成 環境工学：持田 灯 建築の環境設計に関する調査研究 施 工：山田大彦 新材料・工法と施工技術 建築デザイン：伊藤邦明 建築教育の充実を世界的観点から再調査する 災害調査連絡会：田中礼治	
支部研究助成金による研究	東北地方の歴史的建築に関する基本情報のデータベース構築の研究 歴史意匠部会（研究代表者 高橋恒夫）	2003 年 4 月～2004 年 3 月
支部研究報告会	2003 年度東北支部研究報告会、研究報告集第 66 号刊行 発表題数 136 題	2003 年 6 月 14 日～15 日 青森県立保健大学
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ント	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 仙台市と福島市で開催予定 2) 第 14 回「東北建築作品発表会」の開催（仙台市） 3) 第 24 回「東北建築賞」の選考 2. 支部共催 1) 親と子の建築講座 郡山会場「建築のひみつ“かたちとつよさ”」 仙台会場「宮城野通まちたんけん」 弘前会場「手作りの測量器械で長さや土地の広さを測ろう」 山形会場「山形レトロ館めぐり」 2) 第 23 回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、八戸市、秋田市、郡山市	2003 年 10 月 2003 年 10 月 4 日 2003 年 10 月 19 日 2003 年 7 月 13 日 2003 年 7 月 27 日 2003 年 10 月 26 日 2003 年 10 月～2004 年 3 月

研究部会主催	1. シンポジウム 2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催	
表彰	1. 第23回東北建築賞 作品賞 3点、作品奨励賞 3点、 2. 支部功労会員 (個人)大村虔一、田代 侃、福井正明、岩崎 博 (法人賛助)10年以上継続 42社	2003年6月14日 青森県立保健大学 2003年5月24日 仙台市情報・産業プラザ
支所活動	青森支所 ・全員協議会 ・第23回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・親と子の建築講座「手作りの測量器械で長さや土地の広さを測ろう」：弘前市 秋田支所 ・役員会 ・第32回建築学科生徒による建築設計作品コンクール：秋田市 ・第23回東北建築賞作品展示会：秋田市 岩手支所 ・第23回東北建築賞作品展示会：盛岡市 ・第30回県内工業高校生徒設計製図作品コンクール後援 ・第34回県下工業高校設計作品コンクール：盛岡市 山形支所 ・第23回東北建築賞作品展示会：山形市 ・親と子の建築講座「山形レトロ館めぐり」：山形市 福島支所 ・第23回東北建築賞作品展示会：郡山市 ・第23回東北建築賞受賞記念講演会：郡山市 ・親と子の建築講座「建築のひみつ『かたちとつよさ』」：郡山市	2003年10月 2003年7月27日 2004年2月 2004年3月 2004年2月 2004年2月 2004年2月 2004年1月 2003年10月26日 2004年3月 2004年3月 2003年10月19日
刊行活動	支部年報第23号発刊 東北支部研究報告集第66号発行 東北建築作品集(第14号)発行	2003年5月24日 2003年6月14日 2003年10月4日

支部共通事業

講習会	1) 講習会 鉄筋コンクリート造建築物の収縮ひび割れ メカニズムと対策技術の現状 2) 建築物荷重指針改訂講習会	2003年7月2日 仙台市情報・産業プラザ 2003年11月
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 仙台市、八戸市、郡山市、山形市、本荘市	2003年7月～2004年1月
審査会	2003年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：「みち」支部選考	2003年6月

法人・賛助会員

(株)阿部重組	(株)ウンノハウス	東北文化学園大学専門学校
阿部建設(株)	(株)梓設計	住宅金融普及協会
青柳工業(株)	(株)伊藤喜三郎建築研究所	日刊建設産業新聞社
秋山建設(株)	東日本興業(株)	東北芸術工科大学図書館
伊藤組土建(株)	佐藤工業(株)	宮城県設備設計事務所協会
大槻電設工業(株)	北洲ハウジング	(株)ティー・アール建築アトリエ
(株)大林組	(株)設計集団空	日本原燃株
(株)関・空間設計	東北ポール(株)	山形県立図書館
(株)奥村組	(株)昴設計	正和工業(株)
鹿島建設(株)	(株)みちのく設計	(株)志賀設計
(株)久米設計	東北ドック鉄工(株)	(株)田村設計室
(株)熊谷組	(株)盛総合設計	(株)佐藤総合計画
五洋建設(株)	千田総兵衛建築事務所	(株)氏家建築設計事務所
佐藤工業(株)	(株)内海建築事務所	(株)ダイテック
清水建設(株)	(株)蔵王建築設計事務所	(株)楠山設計
仙建工業(株)	(株)都市構造研究センター	東北文化学園大学
(株)大気社	(株)東北設計計画研究所	東開クレテック(株)
大成建設(株)	(株)本間利雄設計事務所+地域環境 計画研究室	(株)若松六本木設計
大末建設(株)	(株)泉パークタウンサービス	エヌ・ティ・ティ都市開発(株)
太平電気(株)	(株)清水公夫研究所	大木工務店
(株)竹中工務店	(株)エムアイティ建築研究所	オギノ
鉄建建設(株)	旭化成建材(株)	蔭山工務店
戸田建設(株)	(株)東北開発コンサルタント	東北設備工業(株)
(株)ユアテック	東日本旅客鉄道(株)東北工事事務所	滝谷建設工業株
西松建設(株)	(株)IN A 新建築研究所	ムツ電
日産建設(株)	はりま建設(株)	三友電設(株)
(株)間組	高吉建設(株)	東新電気工業(株)
(株)フジタ	東北電力(株)	オオバ工務店
(株)深松組	日本大学図書館	元旦ビューティー工業(株)
堀江工業(株)	(株)NTT ファシリティーズ	
前田建設工業(株)	青森建設協同組合	
升川建設(株)	八戸工業大学	
三菱建設(株)	(社)日本電設工業協会	
三菱地所設計		
(株)山下設計		

日本建築学会

東北支部年報

2003年5月24日発行 第23号

編集責任者 金子 佳生